

3. 学際的・国際的な学びを育てる教育環境

1) 学部学生への支援

(1) トビタテ!留学 JAPAN への応募支援

文部科学省が、グローバル人材育成施策の一環として行う「官民協働海外留学支援制度～トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム」第 13 期募集について学部学生に広報を行った。興味を示した 2 回生 1 名に対し、多様性人材コース（1 年間留学計画）に応募する申請書類の推敲を支援し、応募できた。

(2) インドネシア ガジャマダ大学からの短期研修受け入れ

ガジャマダ大学と看護学部は 2013 年に交流協定を締結し、毎年学生の受入や派遣を行っている。令和元年度は 11 月 3 日から 6 日間、9 名（看護学科 4 回生学生 8 名、教員 1 名）を受け入れ、以下の通り、災害看護について学ぶとともに、本学学生と交流する研修プログラムを実施した。

日時	日程
2019.11.2	19:25 高知駅着
2019.11.3	8:30 出発 10:00 避難所シミュレーションゲーム参加(須崎市) 【神原】 14:00 フィールドワーク (須崎市街散策、中土佐避難タワー見学) 【ガジャマダ大学学生 8 名・教員 1 名、 本学 2 回生 2 名・TA1 名・教員 3 名 (川上・田之頭・永井) 】
2019.11.4	8:00 バスハイク (龍河洞、大日寺、香美市地域交流施設でピザ作り) 【ガジャマダ大学 8 名・教員 1 名、 本学 2 回生 5 名・TA2 名・教員 3 名 (渡邊・田之頭・永井) 】
2019.11.5	10:00 学長表敬訪問 10:30 看護学部キャンパスツアー【田之頭・永井】 13:00 4 回生(看護実践能力開発実習)クラスへの参加【木下他】
2019.11.6	10:30 1 回生学生との交流会【永井】 13:00 災害看護講義&DNGL 学生と交流【神原】
2019.11.7	10:00 高知医療センターで災害への備えについて見学【TA2 名・永井】 13:00 女性のための防災訓練ワークショップ参加 (あんしんセンター) 【神原先生】 18:30 送別会 (ガジャマダ大学学生希望により回転寿司)
2019.11.8	9:00 もみのき病院見学【永井】 13:00 フィールドワーク (高知城他高知市内散策) 17:00 学長への挨拶
2019.11.9	9:10 高知駅発

(3) 高知県・安徽省友好提携 25 周年記念訪問団への学生参加

令和元年度に高知県と中国安徽省友好提携 25 周年を迎えたことを記念し、「高知県・安徽省友好提携 25 周年記念青少年交流事業」として高知県が派遣する高知県・安徽省友好提携 25 周年記念訪問団に本学から推薦する学生 2 名を募集することとなった。令和元年 11 月 20 日 (水) ～11 月 23 日 (土) の研修であったため実習期間中の 3 回生を除く 1、2、4 回生全員 (255 名) にメールでの応募を呼びかけ、参加を希望し相談に来た学生に対応した。全学で 7 名

が応募し、看護学部学生 2 名が選考され交流事業に参加した。研修後、研修報告会を実施し（2020 年 1 月 13 日 1 限、1 回生 20 名・2 回生 5 名参加）、学びを共有した。

(4) DNGL 外国人学生との交流会

大学院看護学研究科共同災害看護学専攻博士課程（DNGL）に在籍している留学生から、母国の健康問題や看護の状況などについて話を聞く機会をもつことで、グローバルに健康問題や看護を捉える視点を養うことを目的に、学部生と留学生との交流会を開催した。

テーマ：『DNGL の学生と語る健康と看護』

日時：2020 年 1 月 10 日(金)昼休み（ランチョン形式）

参加者：学生 7 名（1 回生 1 名、2 回生 6 名）、教員 3 名

DNGL の学生 2 名からは、母国であるネパールとインドネシアの風土や生活状況、看護教育の特徴などについて英語でのプレゼンテーションがあり、学生は日本との違いに関心を持ちながら聞いていた。なかには英語で質問をする学生もあり、少ない参加者ではあったが、海外に目を向け、多文化を知る機会になっただけでなく、楽しみながら英語に触れ、英語でコミュニケーションをとる場にもなり、有意義であったと考える。



2) 大学院生への支援

日 時：2020 年 2 月 14 日（金曜日）

テーマ：「地方における医療制度・政策について ～個人情報に命を救う～」

講 師：森田朗教授津田塾大学総合政策学部

「第 6 回越境シリーズ講座 異分野から学ぶ」として開催し、池キャンパスから永国寺キャンパスへテレビ会議でも配信した。

主な内容として、人口推移や人口変化の現状・メカニズムを基に、全国と高知県の人口動態についてダイナミックなグラフや図を用いて視覚的に紹介いただいた。そして、少子化対策をしても人口は 2060～2080 年まで減少していき、大都市部への人口集中、大都市部での高齢化は進んでいくため、今後は人口減少が進むことを前提に、国づくりや政策提言をしていくことの重要性が示された。

また、人口減少による医療分野の課題として、地域医療の質の低下、医師の養成と地域や診療科による医師不足についても話され、今後は遠隔診療や在宅医療、地域包括ケアが重要視され、病院・診療所の連携や情報共有が大事であると述べられた。

最後に、多様な災害が相次ぐ現在、災害ごとに対応を考えていたら間に合わなくなる恐れがあるため、例えばマイナンバーを介した平時からの、安否、位置、財産情報等の情報蓄積とそれに係る情報システムの構築が必要であると提言をいただいた。

大学院生からは、このように統計的に地域と健康を見ることの大事さを痛感したという点で非常に刺激を頂いた、博士論文の参考にしたいなどの感想があった。